

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月10日

【四半期会計期間】 第65期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

【会社名】 エステールホールディングス株式会社

【英訳名】 ESTELLE HOLDINGS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 丸山 雅史

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区神宮前4丁目26番21号
(2022年8月2日から本店所在地 東京都港区虎ノ門四丁目3番13号が上記のよう
に移転しております。)
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っておりま
す。)

【電話番号】 03 - 5777 - 5120(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 横内 達治

【最寄りの連絡場所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番13号

【電話番号】 03 - 5777 - 5120(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 横内 達治

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第64期 第3四半期 連結累計期間 | 第65期 第3四半期 連結累計期間 | 第64期 |
|--------------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 2021年4月1日 至 2021年12月31日 | 自 2022年4月1日 至 2022年12月31日 | 自 2021年4月1日 至 2022年3月31日 |
| 売上高 (百万円) | 22,135 | 21,810 | 29,985 |
| 経常利益 (百万円) | 277 | 181 | 781 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円) | 256 | 109 | 73 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 342 | 385 | 173 |
| 純資産額 (百万円) | 14,154 | 14,153 | 13,990 |
| 総資産額 (百万円) | 35,922 | 35,098 | 34,576 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | 24.16 | 10.33 | 6.94 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円) | - | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 38.9 | 39.6 | 40.0 |

| 回次 | 第64期 第3四半期 連結会計期間 | 第65期 第3四半期 連結会計期間 |
|-----------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 会計期間 | 自 2021年10月1日 至 2021年12月31日 | 自 2022年10月1日 至 2022年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益 (円) | 27.94 | 10.76 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、従来非連結子会社でありましたエステールカンボジアCO.,LTD.は重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、当第3四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症の影響については、「2 経営者による財政状況、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1)業績の状況」に記載したとおりであります。今後の状況によっては当社グループの財政状況及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、外出制限が緩和され、ウィズコロナにむけた新たな生活様式が進む中、個人消費はやや持ち直しの兆しが見られてまいりました。しかしながら、新たな変異株の出現による新型コロナウイルスの再拡大に加え、世界的な資源価格の高騰、為替の大きな変動による物価の高騰により、消費の低迷など景気への影響は依然予断を許さない状況にあります。

このような環境の中、当社グループは、従業員の健康・安全を最優先に配慮した上で、感染対策を徹底しながらも、お客様とのコミュニケーションづくりにあらためて注力するとともに、成長を持続するため各事業において、人材育成、商品力の強化、構造改革に取り組みました。

この結果、当グループの当第3四半期連結累計期間の業績は、依然消費マインドが弱い状況が続くなか、人員体制の確保が厳しかったこともあり、売上の回復にいたらず、売上高は218億10百万円(前年同期比1.5%減)となりました。営業損益は1億35百万円の損失(前年同期は1億27百万円の利益)となり、経常利益は、為替差益等により1億81百万円(前年同期比34.5%減)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、減損損失等により、1億9百万円(前年同期比57.2%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

宝飾品

外部顧客への売上高は、お客さまとのコミュニケーションを強めていく取り組みを強化し進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大など消費マインドが回復しきれない中、人員体制の確保が厳しかったこともあり183億4百万円(前年同期比2.7%減)となり、セグメント利益は27百万円(前年同期比89.1%減)となりました。

眼鏡

外部顧客への売上高は、店頭での打ち出し等の見直しや人材育成などを強化していくことにより、20億3百万円(前年同期比8.0%増)となり、セグメント利益は、37百万円(前年同期比31.1%増)となりました。

食品販売・飲食店

外部顧客への売上高は、よりオリジナリティのある商品開発に取り組むなど、マーケットの変化に対応してまいりましたが、15億2百万円(前年同期比2.0%増)となり、セグメント損益は2億4百万円の損失(前年同期は1億60百万円の損失)となりました。

当四半期における当社グループの主な店舗展開は以下のとおりです。

| セグメント | 宝飾品 | 眼鏡 | 食品販売・飲食店 |
|----------|---------------|----------|------------------|
| 会社名 | As-meエステール(株) | キンバレー(株) | エステールホールディングス(株) |
| 前期末店舗数 | 366 | 68 | 31 |
| 新規出店 | 7 | 3 | 3 |
| 閉店 | 11 | 2 | - |
| 当四半期末店舗数 | 362 | 69 | 34 |

(2) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末の345億76百万円より5億22百万円増加し、350億98百万円となりました。主な増減は、商品及び製品などの棚卸資産の増加17億95百万円及び受取手形及び売掛金の増加3億44百万円と、現金及び預金の減少19億5百万円などです。

負債合計は、前連結会計年度末の205億85百万円より3億59百万円増加し、209億44百万円となりました。主な増減は、長期借入金の増加2億22百万円及び1年内返済予定の長期借入金の増加1億2百万円などです。

純資産合計は、前連結会計年度末の139億90百万円より1億63百万円増加し、141億53百万円となりました。主な増減は、為替換算調整勘定などのその他包括利益の増加2億71百万円及び親会社株主に帰属する四半期純利益1億9百万円の計上による利益剰余金の増加と、剰余金の配当2億86百万円による利益剰余金の減少などです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 15,000,000 |
| 計 | 15,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日) | 提出日現在 発行数(株) (2023年2月10日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|---|---------------------------------|------------------------------------|-----------|
| 普通株式 | 11,459,223 | 11,459,223 | 東京証券取引所 スタンダード市場 | 単元株式数100株 |
| 計 | 11,459,223 | 11,459,223 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|----------------------------|-----------------------|----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 2022年10月1日～ 2022年12月31日 | | 11,459,223 | | 1,571 | | 1,493 |

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年12月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|--------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 831,500 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 10,606,600 | 106,066 | |
| 単元未満株式(注) | 普通株式 21,123 | | |
| 発行済株式総数 | 11,459,223 | | |
| 総株主の議決権 | | 106,066 | |

(注) 「単元未満株式」の普通株式には、当社所有の株式3株が含まれております。

【自己株式等】

2022年12月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|-------------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) エステールホールディングス株式会社 | 東京都港区虎ノ門四丁目 3番13号 | 831,500 | - | 831,500 | 7.25 |
| 計 | | 831,500 | - | 831,500 | 7.25 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、爽監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 8,617 | 6,711 |
| 受取手形及び売掛金 | 2,207 | 2,551 |
| 商品及び製品 | 11,098 | 12,187 |
| 仕掛品 | 1,439 | 1,671 |
| 原材料及び貯蔵品 | 3,300 | 3,774 |
| その他 | 337 | 410 |
| 貸倒引当金 | 0 | 0 |
| 流動資産合計 | 26,999 | 27,306 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 1,829 | 1,926 |
| 無形固定資産 | 167 | 161 |
| 投資その他の資産 | | |
| 敷金及び保証金 | 2,523 | 2,481 |
| その他 | 3,058 | 3,223 |
| 貸倒引当金 | 1 | 1 |
| 投資その他の資産合計 | 5,579 | 5,703 |
| 固定資産合計 | 7,576 | 7,791 |
| 資産合計 | 34,576 | 35,098 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 4,451 | 4,483 |
| 資産除去債務 | - | 23 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 3,983 | 4,086 |
| 未払法人税等 | 173 | 34 |
| 賞与引当金 | 424 | 198 |
| その他 | 2,266 | 2,679 |
| 流動負債合計 | 11,298 | 11,504 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 6,917 | 7,139 |
| 役員退職慰労引当金 | 694 | 710 |
| 退職給付に係る負債 | 1,595 | 1,483 |
| 資産除去債務 | 74 | 101 |
| その他 | 4 | 5 |
| 固定負債合計 | 9,286 | 9,440 |
| 負債合計 | 20,585 | 20,944 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,571 | 1,571 |
| 資本剰余金 | 3,384 | 3,384 |
| 利益剰余金 | 9,376 | 9,192 |
| 自己株式 | 570 | 570 |
| 株主資本合計 | 13,762 | 13,578 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 102 | 162 |
| 為替換算調整勘定 | 7 | 194 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 58 | 33 |
| その他の包括利益累計額合計 | 52 | 323 |
| 非支配株主持分 | 175 | 251 |
| 純資産合計 | 13,990 | 14,153 |
| 負債純資産合計 | 34,576 | 35,098 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 22,135 | 21,810 |
| 売上原価 | 9,328 | 9,179 |
| 売上総利益 | 12,807 | 12,630 |
| 販売費及び一般管理費 | 12,679 | 12,765 |
| 営業利益又は営業損失() | 127 | 135 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 0 | 0 |
| 受取配当金 | 3 | 3 |
| 受取手数料 | 21 | 21 |
| 為替差益 | 153 | 312 |
| その他 | 6 | 10 |
| 営業外収益合計 | 185 | 348 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 28 | 27 |
| その他 | 6 | 3 |
| 営業外費用合計 | 35 | 31 |
| 経常利益 | 277 | 181 |
| 特別利益 | | |
| 助成金収入 | 1 203 | 1 13 |
| 特別利益合計 | 203 | 13 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 7 | 86 |
| 店舗閉鎖損失 | 4 | - |
| 臨時休業による損失 | 2 81 | - |
| 特別損失合計 | 93 | 86 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 387 | 109 |
| 法人税等 | 122 | 5 |
| 四半期純利益 | 265 | 114 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 8 | 5 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 256 | 109 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 265 | 114 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 10 | 59 |
| 為替換算調整勘定 | 61 | 187 |
| 退職給付に係る調整額 | 4 | 24 |
| その他の包括利益合計 | 76 | 271 |
| 四半期包括利益 | 342 | 385 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 333 | 380 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 8 | 5 |

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、非連結子会社であったエステールカンボジアCO.,LTD.の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(四半期特有の会計処理)

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益又は損失に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定に重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

1 助成金収入

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、雇用調整助成金等の特例措置の適用を受けたものであります。
 当該支給見込額を助成金収入として特別利益に計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、雇用調整助成金等の特例措置の適用を受けたものであります。
 当該支給見込額を助成金収入として特別利益に計上しております。

2 臨時休業による損失

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

新型コロナウイルス感染症に対する政府・自治体からの各種要請等を踏まえ、店舗の営業時間の短縮や休業を実施いたしました。

当該休業期間中に発生した固定費(賃借料・減価償却費・人件費等)を臨時休業による損失として特別損失に計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) |
|-------|--|--|
| 減価償却費 | 372百万円 | 297百万円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|--------------------|-------|-----------------|--------------|------------|------------|-------|
| 2021年5月12日 取締役会 | 普通株式 | 286 | 27円00銭 | 2021年3月31日 | 2021年6月14日 | 利益剰余金 |

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額 | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|--------------------|-------|-----------------|--------------|------------|------------|-------|
| 2022年5月31日 取締役会 | 普通株式 | 286 | 27円00銭 | 2022年3月31日 | 2022年6月14日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 合計 | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 財務諸表 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|---------|-------|--------------|--------|--------------|-------------------------------|
| | 宝飾品 | 眼鏡 | 食品販売・ 飲食店 | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 18,807 | 1,855 | 1,472 | 22,135 | - | 22,135 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | - | - | - | - | - | - |
| 計 | 18,807 | 1,855 | 1,472 | 22,135 | - | 22,135 |
| セグメント利益 又は損失() | 255 | 28 | 160 | 124 | 3 | 127 |

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額3百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「宝飾品」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を認識し、7百万円を特別損失に計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 合計 | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 財務諸表 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|---------|-------|--------------|--------|--------------|-------------------------------|
| | 宝飾品 | 眼鏡 | 食品販売・ 飲食店 | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 18,304 | 2,003 | 1,502 | 21,810 | - | 21,810 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | - | - | - | - | - | - |
| 計 | 18,304 | 2,003 | 1,502 | 21,810 | - | 21,810 |
| セグメント利益 又は損失() | 27 | 37 | 204 | 139 | 4 | 135 |

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額4百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結財務諸表の営業損失と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「宝飾品」、「眼鏡」及び「食品販売・飲食店」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を認識し、それぞれ、56百万円、12百万円、17百万円を特別損失に計上しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

収益認識の地域別に分解した顧客との契約から生じる収益は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 合計 |
|---------------|---------|-------|--------------|--------|
| | 宝飾品 | 眼鏡 | 食品販売・ 飲食店 | |
| 日本 | 18,479 | 1,662 | 1,472 | 21,614 |
| ベトナム | 327 | 192 | - | 520 |
| カンボジア | - | - | - | - |
| 顧客との契約から生じる収益 | 18,807 | 1,855 | 1,472 | 22,135 |
| その他の収益 | - | - | - | - |
| 外部顧客への売上高 | 18,807 | 1,855 | 1,472 | 22,135 |

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

収益認識の地域別に分解した顧客との契約から生じる収益は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | 合計 |
|---------------|---------|-------|--------------|--------|
| | 宝飾品 | 眼鏡 | 食品販売・ 飲食店 | |
| 日本 | 17,824 | 1,729 | 1,502 | 21,056 |
| ベトナム | 446 | 273 | - | 720 |
| カンボジア | 33 | - | - | 33 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 18,304 | 2,003 | 1,502 | 21,810 |
| その他の収益 | - | - | - | - |
| 外部顧客への売上高 | 18,304 | 2,003 | 1,502 | 21,810 |

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日) |
|--------------------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 24円16銭 | 10円33銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円) | 256 | 109 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円) | 256 | 109 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 10,627 | 10,627 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月10日

エステールホールディングス株式会社
取締役会 御中

爽監査法人

東京都千代田区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 貝 沼 彩

指定社員
業務執行社員 公認会計士 板 垣 善 昭

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエステールホールディングス株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エステールホールディングス株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施され

る年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。